

津山市制施行80周年おめでとうございます。

コンサートツアーという形で、毎年いろいろな町を見て回るたびに、

「今、津山の商店街はどんな感じかな？」と考えます。お祭りや土曜市ですっかり浮かれて、一番街や銀天街の本屋、洋服屋、レコード店、裏通りのお好み焼き屋などに入り浸っていた自分をはっきり憶えています。他の町の人から見て、それがどれほど興奮できるものであったかはわかりませんが、当時の自分にとって、頭の中の地図の大部分を占めていた「津山」は、まさに自分の誇れる熱いホームタウンでした。そして、毎年その熱気のしるしのように、鶴山の桜は咲き続けてくれます。人がふと立ち寄りたくなる町として、外に向けて情報を発信していくことは重要ですが、人はその町の内側にこもっている独特の「熱」に惹かれてやって来るのだと思います。今後も津山が熱い人の住む、熱い町であり続けるよう、心から願っています。

稲葉浩志